

巻 頭 言



札幌市長 秋元 克広

国際都市札幌として 更なる魅力づくりへ

札幌市は、明治初期の1869年に開拓使が置かれ、多くの外国人技師を招き、欧米の知識や経験を習得してまちづくりを進めるなど、古くから海外との関わりを持つ街です。1972年にアジア地域で初めて冬季オリンピック大会が開催され、世界に「サッポロ」の名が知られると、札幌市の国際化は大きく加速することとなりました。

海外諸都市との交流も活発に進め、姉妹・友好都市提携は、1959年のポートランド市を皮切りに、1972年にミュンヘン市、1980年に瀋陽市、1990年にノボシビルスク市、2010年には大田広域市と姉妹都市提携を結んでいます。今年は、ポートランド市との姉妹都市提携60周年記念の年です。6月には周年記念事業の新たな取組として、私が団長となり、行政、議会、経済観光、学術及び市民の各界の代表者が参加した記念訪問団を編成し、現地での様々な公式行事等に参加しました。各界の代表者も、それぞれが各所において視察や交流などを行い、大変有意義な訪問であったとの声を聞くことができました。そして10月には、ポートランド市のテッドウィーラー市長を札幌市に招待し、60年という長きにわたって続いてきた両市の揺るぎない絆をお互いに確認したいと考えています。

また、札幌市が主宰している海外ネットワークとして、「世界冬の都市市長会」があります。この会は、「冬は資源であり、財産である」というスローガンのもと、積雪又は寒冷な気象条件下でまちづくりを行う世界中の「冬の都市」が集まり、様々な分野の技術やまちづくりの取組を学び合っています。札幌市の提唱によって誕生してから今年で38年目を迎え、会員都市は9か国23都市に上る大きなネットワークとなっており、現在プラットフォームとしての機能強化を模索しています。

さて、昨年度に札幌市を訪れた外国人宿泊者数は、平成30年北海道胆振東部地震の影響により一部の国・地域で減少が見られたものの、全体としては約272万人であり、7年連続で過去最多を更新しました。また、札幌市に暮らす在留外国人も近年急増しています。2019年8月現在で約1万4千人と全人口の約0.7%ですが、ここ数年は毎年1,000人を超えるペースで増加を続けています。入管難民法改正により、新たな在留資格が創設され、今後も増えることが見込まれる生活者としての外国人が抱える不便や不安に対処するため、一元的な多言語総合相談窓口を開設するための準備を進めています。

札幌市は、これまで培った国際交流の実績や海外ネットワークを活かすとともに、共生社会の実現に向けた取組を進めながら更なる国際化を推進し、日本人にも外国人にも大きな魅力を感じてもらえる国際都市札幌を目指していきます。